

## 研究プロジェクト

## 負の感情研究——怨霊から嫉妬まで

鎌田東二（こころの未来研究センター教授）

## ■「負」の感情の制御

人間の「こころ」のはたらきの中で、特に微妙でやっかいな影響を及ぼすのが、「負」の感情である。

「負」の感情には、怒り、憎しみ、恨み、嫉みなどさまざまあるが、正義感に駆られた怒りを抱くとか、理不尽な振る舞いを憎むとかの感情であるならば、その怒りや憎しみは「負」というよりも、関係性をより良い方向へと是正していく「正」の側面を持つことになるので、その場合、「正」と「負」の関係は一義的・実体的に決定しているとはもちろん言えず、関係的・状況的な相互反転性や両義性を持っている。

とはいえ、これらの感情が「負」となることがあるのは、それらの感情の強い生起が、自己のあり方や他者との関係性に修復困難なダメージを与えたり、暴力的な破壊をもたらすことがあるからである。誰しも一度ならず体験したことがあると思うが、破壊衝動を伴うこともあるこうした「負」の感情をコントロールすることは容易ではない。

わたしが「負」の感情研究を始めたのは、「世直し」に對置して「心直し」ということを考えるようになってきたからであるが、その「心直し」において「負の感情の制御」という問題はきわめて重要な課題となってくると思えたからである。

## ■ 2つの合同研究会

そこで、本研究プロジェクトでは、本年度は、慶應義塾大学との合同研究会として、1つは、お盆の行事と大文字（五山）の送り火の行われる2010年8月15日と16日に『負の感情』とはなにか？——『底つき感』の通文化比較とその手法としての映像』というテーマで、もう1つは、2011年2月21日に『負の感情』の克服への方途——心

理学、宗教学、人類学による東西の文化比較から』というテーマで行った。

前者では、南カリフォルニア大学教授の文化人類学者・映像人類学者のK. G. Heider氏が「ニューギニアおよびインドネシア先住民社会における負の感情と映像人類学」について発表し、それを中心に負の感情の文化的ありかたの共通性と違いについて映像資料も交えつつ検討した。後者では、トロント大学教授の認知心理学者のGerald Cupchik氏が“Under the Gaze of the Buddha: Calming Our Negative Emotions.”と題するプレゼンテーションを行い、これを中心に「負の感情」の克服への方途の文化的共通性と違いについて、トリックスター論や宗教的方途の異同にも焦点を合わせつつ東西文化の比較という視点から論議した。特に、負の感情の克服に例えばトリックスターの笑いが有効に作用する文化的文脈や、仏像の表情の認知と感情の問題、またユダヤ教と神道における〈畏敬〉の感情の比較、負の感情の鎮め方などが議論された。

## ■「負」の感情の克服に芸術が果たす役割

本研究プロジェクト「負の感情研究」は、副題に「怨霊から嫉妬まで」という副題を付している。それは、中央アフリカのピグミー系狩猟採集民および中央アジアの遊牧民を対象に、これまで「嫉妬」と呪術ないし宗教実践の関係についての報告がほとんどない狩猟採集や遊牧社会における「嫉妬」のあり方について、現代日本を含むより「複雑な」社会体制における「嫉妬」のあり方との比較を念頭に実証的に再検討することを研究計画の1つに据え、これにより得られた仮説を、農耕以後の北東アジアの諸社会における社会怨

霊、崇り、怨念、復讐などの歴史民俗事例に関する文献記述を批判的に見直し、再解釈を行おうと考えたからである。

## ■和歌、神道祭祀、仏教儀礼、修行

そして、これらのフィールド研究や文献研究で得られた視角や考察を、文学・音楽・演劇・舞踊などに表象されてきた「負」の感情表現に適用して、「負」の感情の克服に芸術が通時代的に果たしてきた役割を解明することを企図した。そこにおいて、とりわけ、「鎮魂の芸能」と言われる能（申楽）の取り扱いが本質的に重要な事例研究となる。

そこで、本年度は能研究を核としつつ、「怨霊」の荒ぶる都／「嫉妬」の渦巻く都・平安京の「負の感情」を浄化する装置・方途・技法としての和歌と神道祭祀と仏教儀礼と修行を考察の対象としていった。具体的には、桓武天皇の実弟・早良親王の「怨霊」鎮めとしての「御霊神社・出雲寺」の創建、菅原道真の「怨霊」鎮めとしての「北野天満宮（北野天神）」の創建、崇徳上皇の「怨霊」鎮めとしての「白峰神宮」の創建、東：青龍、南：朱雀、西：白虎、北：玄武の四つの霊獣に護られた風水都市（四神相応の地）平安京、鬼門の鎮めとしての比叡山延暦寺と赤山禅院、仏教における負の感情の解消方法＝煩惱の消滅＝解脱プログラム＝四諦八正道を検討考察しつつ、それが聖徳太子が策定したとされる「憲法十七条」にどのように反映されているか、などの諸問題について考察を進めつつある。

## 関連文献

鎌田東二編『平安京のコスモロジー——千年持続首都の秘密』創元社、2010年。